

### 3 IOIBD score(Oxford score)

IOIBD (the international organization for study of inflammatory bowel disease)によって纏められた活動度の評価指標である<sup>36)</sup>。IOIBDにおいて寛解、再燃の定義はなされていないが、1987年、厚生省研究班はこの活動度を採用し、寛解及び再燃を定義した<sup>37)</sup>。その後、本邦で広く用いられるようになったindexである。臨床症状が重点であるため Harvey-Bradshaw indexとの相関は高い( $r=0.756$ )が、検査所見の比重が高いVan Hees indexとの相関は高くない( $r=0.423$ )。

ペントサの承認を目的として実施された臨床試験においても適用されたindexであり、その後、国内で実施された臨床試験においても用いられている。CDAIに比べ、簡便であり、CDの病態を反映したindexであると考えられる。

また、厚生労働省より難病受給者の調査として年1回の提出が義務づけられている臨床調査個人票にもIOIBD scoreを記載する欄がある。従って本邦での使用頻度は高く、このindexを基にした解析も少なくない。一方、海外での使用頻度は高くない。

臨床試験の評価には、champion indexであるCDAIを用いるべきであり、本indexや類似の評価法<sup>38)</sup>は補助的、あるいは副次的なものに留めておくべきであろう。

Validated

#### ■ IOIBD score<sup>36)</sup>

|    |                    |
|----|--------------------|
| 1  | 腹痛                 |
| 2  | 1日6回以上の下痢あるいは粘血便   |
| 3  | 肛門部病変              |
| 4  | 瘻孔                 |
| 5  | その他の合併症            |
| 6  | 腹部腫瘍               |
| 7  | 体重減少               |
| 8  | 38℃以上の発熱           |
| 9  | 腹部圧痛               |
| 10 | 10g/100mL以下のヘモグロビン |

1項目につき1点とする

#### ■ Definitions

| Remission                             | Relapse                            |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| IOIBD score=1または0で、赤沈・CRPが正常化の状態にあるもの | IOIBD score $\geq$ 2で、赤沈・CRPが異常なもの |

36) Myren J, et al. Scand J Gastroenterol 1984; Suppl.19: 1-27

37) 小林純三. 厚生省特定疾患難治性炎症性腸管障害調査研究班(井上班)昭和61年度業績集 1987; 31-32

38) Malchow H, et al. Gastroenterology 1984; 86: 249-266